



しいば 議会だより

第123号

令和8年7月

発行
編集

椎葉村保育所 ふれあい運動会



宮崎県椎葉村議会
議会だより編集委員会
〒883-1601

宮崎県東臼杵郡椎葉村大字
下福良1762番地1
TEL (0982) 67-3209
村内無料電話 7-67-0091



第2回臨時会・6月定例会 ……(2～4)

一般質問 ……(4～8)

委員会報告 ……(8～10)

議員活動報告 ……(10～11)

議会の動き ……(12)

令和8年第2回臨時会

令和8年5月22日に第2回臨時会が開催され、村長提出議案12件を可決・承認しました。

第2回臨時会で審議、議決したこと

議案番号	件 名	審議審査結果
議案第 1号	令和7年度椎葉村一般会計補正予算(第10号)について	承認
議案第 2号	令和7年度椎葉村国民健康保険特別会計補正予算(第6号)について	承認
議案第 3号	令和7年度椎葉村簡易水道事業特別会計補正予算(第6号)について	承認
議案第 4号	令和7年度椎葉村国民健康保険病院事業特別会計補正予算(第5号)について	承認
議案第 5号	令和7年度椎葉村電気事業特別会計補正予算(第7号)について	承認
議案第 6号	令和7年度椎葉村介護保険特別会計補正予算(第6号)について	承認
議案第 7号	令和7年度椎葉村後期高齢者医療特別会計補正予算(第5号)について	承認
議案第 8号	令和7年度椎葉村ケーブルネットワーク事業特別会計補正予算(第6号)について	承認
議案第 9号	専決処分について(椎葉村税条例の一部を改正する条例)	承認
議案第10号	専決処分について(椎葉村国民健康保険税条例の一部を改正する条例)	承認
議案第29号	椎葉村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	可 決
議案第30号	工事請負変更契約の締結について(令和7年度 令和6年災 第311号 村道新屋敷上線 道路災害復旧工事)	可 決

第2回臨時会で議決・承認した主な事業と補正予算額

議案第1号

令和7年度椎葉村一般会計補正予算(第10号)

補正予算1億1,276万2千円追加 → 総額87億3,299万円

補正の主な内容

(歳入)

- | | | |
|----------|-------------|----------------------|
| 1, 国庫支出金 | 1,064万9千円追加 | 子どものための教育・保育給付金(保育所) |
| 2, 国庫支出金 | 8,341万1千円追加 | 公共土木施設災害復旧負担金 |
| 3, 一般寄付金 | 150万円追加 | 企業版ふるさと納税寄付金(2件分) |

(歳出)

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1, 移住定住促進環境整備事業補助金 | 100万円追加(1件) |
| 2, 基金積立 | 9,572万9千円追加(公共施設等整備基金) |
| | 7,000万円追加(ふるさと振興基金) |
| | 1,500万円追加(ふるさと納税基金) |

議案第30号

○令和7年度 6年災 第311号 村道新屋敷上線 道路災害復旧工事

変更前1億1千万円 → 変更後1億1,473万円

契約相手 松尾建設 有限会社

令和8年6月定例会

令和8年6月9日～11日まで6月定例会が開催され、3名による一般質問と村長提出議案19件(同意10件、議案9件)を同意、可決しました。

議案番号	件 名	審議審査結果
同意第2号～第11号	椎葉村農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて	同 意
議案第31号	令和8年度椎葉村一般会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第32号	令和8年度椎葉村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第33号	令和8年度椎葉村電気事業特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第34号	令和8年度椎葉村介護保険特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第35号	令和8年度椎葉村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第36号	令和8年度椎葉村ケーブルネットワーク事業特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第37号	村道路線の廃止について	可 決
議案第38号	村道路線の認定について	可 決
議案第39号	工事請負契約の締結について(令和8年度 4年災 第1391号 村道川の口上線 道路災害復旧工事)	可 決

議案の主な内容

○同意第2～11号

椎葉村農業委員会委員に10名の方が任命されました。新規に黒木寿氏(梶尾)

任期は令和8年7月20日から令和11年7月19日までの3年間です。

中竹直人氏(松尾)、清田泉氏(尾向)、寺原美穂氏(上椎葉)、那須定光氏(鹿野遊)、廣末信夫氏(不土野)、那須福美氏(仲塔)、○新規:黒木寿氏(梶尾)、高松今朝光氏(大河内)、椎葉美代氏(尾八重)

○議案第31号～36号までの一般会計及び特別会計補正予算

●一般会計補正予算

補正額 2億4,312万円追加 ⇒ 総額69億1,612万円

補正の主な内容

〔収入〕	
1. 国庫負担金 : 公共土木施設災害復旧負担金	9,900万円
2. 県補助金 : 学校教育給食費負担軽減補助金	543万円
3. 寄附金 : 企業版ふるさと納税寄附金	1,689万円
4. 繰入金 : ふるさと振興基金	1億円
〔支出〕	
1. 企画費……移住定住促進住環境整備事業	500万円
2. 企画費……移住支援給付金	500万円
3. 社会福祉費…高齢者住宅改造助成事業	100万円
4. 林業振興費…特用林産物生産体制強化事業	122万円
5. 林道維持費…工事請負単独事業	960万円
6. 商工振興費…商工業振興事業補助金	746万円
7. 観光施設費…登山道状況確認利用者対応業務	115万円
8. 道路維持費…工事請負単独事業	7,000万円
9. 河川総務費…村単急傾斜事業補助金	1,600万円
10. 住宅建築費…工事請負単独事業	298万円
11. 公民館費……工事請負単独事業	735万円
12. 道路橋梁災害復旧費…工事請負補助事業	9,900万円

●国民健康保険特別会計補正予算

補正額 101万8千円追加 ⇒ 総額3億3,819万9千円

●電気事業特別会計補正予算

補正額 0円 総額3億907万3千円

●介護保険特別会計補正予算

補正額 3,113万4千円追加 ⇒ 総額4億7,030万8千円

●後期高齢者医療特別会計補正予算

補正額 51万4千円追加 ⇒ 総額9,526万4千円

●ケーブルネットワーク事業特別会計補正予算

補正額 87万3千円追加 ⇒ 総額7,713万3千円

- 議案第37号 村道路線の廃止について(本郷合戦原線・延長5,817.3m)
- 議案第38号 村道路線の認定について(本郷合戦原線・延長3,702.3m)
(大河内飯干線・延長6,938.5m)
- 議案第39号
 令和8年度 4年災 村道川の口上線 道路災害復旧工事
 契約金額 5,775万円
 契約相手 株式会社 甲斐建設

村長に聞く! ~ 一般質問 ~



蔵座二九生議員

質問

親子山村留学の取り組みについて

問1

令和7年度の実績について

親子山村留学制度について、令和8年度からの受入れを目指して募集を行った結果、問い合わせ件数や体験留学の状況、実際の受入れ実績などの内容を伺う。

答1

(教育長)

福岡市の小学校保護者への周知やホームページ、SNSで広報を実施。問い合わせは4件あり、宮崎市の家族が体験留学を行ったが移住には至らず、令和7年度の受入れ実績はゼロだった。

問2

実績から見えた問題点について優先的に

募集の結果を踏まえ、どのような課題や問題点があったと分析しているのか伺う。

答2

(教育長)

最大の課題は広報が対象者に十分届かなかったことと、募集期間が実質2か月と短かったこと。山村留学の実績がある自治体では継続的な広報活動が成果につながっていると認識している。

問3

本年度の募集改善策について

昨年度の反省を踏まえ、本年度はどのような改善を行い、募集活動を進めているのか伺う。

答3

(教育長)

募集対象を福岡市、熊本市、鹿児島市、宮崎市へ拡大し、教育委員会や校長会への直接訪問を実施。ホームページやSNS、県福岡事務所のアンテナショップなども活用し、広報強化を図っている。

問4

不土野小学校を対象校とした理由について

親子山村留学の受入校を不土野小学校に限定している理由と、地域の協力体制について伺う。

答4

(教育長)

不土野小学校は児童数減少により存続が危ぶまれたため対象校とした。地域説明会では存続の理解をいただき、実施に踏み込むことができた。人口減少対策にもつながる事業と考えている。

問5

応募がない場合と5年計画の整合性について

本年度も応募がない場合、5年後の制度確立という目標をどのように考えているのか伺う。

答5

(教育長)

現時点では当初計画どおり進め、5年間を目途に親子山村留学制度を形にしたい。

問6

全学校への展開について

山村留学制度を不土野小学校以外の小中学校にも広げる予定があるのか伺う。

答6

(教育長)

将来的には全校で実施する考えがある。ただし、実施には地域や保護者の理解が必要であり、各地区の意向を確認しながら段階的に進めていく。

問7

中学生留学について

小学生だけでなく、中学校の寄宿舎を活用した中学生の山村留学を検討できないか伺う。

答7 (教育長)

全国的にも中学生は寮やホームステイ型の留学が主流であり、寄宿舎を活用すれば実施は可能と考えている。今後の選択肢として検討していきたい。

問8 応募がない場合の統廃合について(村長)

不土野小学校に応募がなかった場合、統廃合を検討すべきではないか。村長の考えを伺う。

答8 (村長)

仮定の話であるため明言は避けるが、学校存続を望む地域の声があれば応えていきたい。親子山村留学は人口減少対策にもつながるため、村として支援を続ける。

問9 PTA意見を踏まえた学校存続について

PTAからは統合を望む声もあると聞く。保護者の意見も踏まえ、学校存続についてどのように考えるか伺う。

答9 (村長)

保護者や地域の意見は把握しているが、まずは親子山村留学を成功させ、統廃合を回避できる学校環境づくりを進めたい。5年間の計画の中で支援を継続する。



質問2

災害時の避難住宅について

問1 避難住宅の制度と入居期間について

災害により自宅での生活が困難となった場合、仮設住宅や公営住宅へ優先的に入居することになるが、両者の制度や入居期間に違いがあるのか伺う。

答1 (村長)

被災状況や本人の意向に応じて公営住宅や仮設住宅へ優先的に入居できる。いずれも原則として災害復旧工事完了日または入居日から最長2年以内の入居となり、長期避難の場合は避難の必要がなくなるまで対応する。

問2 避難者への退去要請事例について

住宅へ戻れない状況にもかかわらず、2年の期限を理由に退去を求められ転居した事例があったのか事実関係を伺う。

答2 (村長)

道路災害により避難した住民へ退去通知を送付した事例があった。当初は工事完了と入居期限が同時期だったが、その後工期延長となった。入居延長の説明が遅れたため混乱を招き、最終的には本人の意思で退去となった。

問3 再発防止策について

今回の事例を受け、同様の問題を防ぐため関係課との協議や再発防止に向けた取り組みを行ったのか伺う。

答3 (村長)

工期延長の情報共有が不十分だったことを反省している。建設課内で情報共有の徹底を図り、関係部署とも連携しながら再発防止に取り組み、同様の事案が起きないように改善を進める。

問4 退去を防げなかった経緯について

退去通知を出すまでの過程で上司への相談や判断の見直しなどにより、退去を防ぐことはできなかったのか伺う。

答4 (村長)

当初は工事完了日を入居期限と認識していたため退去通知を送付した。その後の工期延長把握が遅れたことが問題であり、後に入居延長が可能であることを説明したが、本人が退去を選択する結果となった。

問5 検証体制と職員教育について

今回のような事案を検証し、再発防止策を組織的にまとめて報告する仕組みがあるのか。また、なければ整備すべきではないか伺う。

答5 (村長)

行政には住民に寄り添った対応が求められる。今回の事例を検証し、職員への指導や教育を強化していく。庁議なども活用しながら、住民目線に立った対応ができるよう改善を進める。

問6 職員への指導強化について

同様の事案を防ぐため、幹部職員を含めた職員への指導や教育を徹底すべきと考えるが見解を伺う。

答6 (村長)

再発防止に向け、職員一人ひとりが住民の立場で考え行動できるよう意思統一を図る。組織全体で住民に寄り添った対応を徹底し、同様の問題が起こらないよう努める。

問7 避難者の不安解消と今後の対応について

避難生活の長期化は地域離れや農地荒廃につながる恐れがある。不安を抱える避難者への支援や不安解消策について伺う。

答7 (村長)

避難者は将来への不安を抱えており、行政による丁寧な支援が必要と認識している。住宅確保や生活再建支援、関係機関との連携を進め、避難開始から解消まで安心して生活できるようきめ細かな対応に努める。



河口吉弘 議員

質問

林業架線技術者の確保と育成について

問1

森林・林業ビジョンでは会社等の法人所有林を除く個人が所有する人工林は17,600ヘクタールとしている。そのうち手入れが行き届いていない林地や皆伐困難な面積は。

答1

(村長) 「森林経営計画」が立てられていない人工林の約3割で5,000ヘクタールと想定している。

問2 搬出困難な山林として環境林に誘導するというのは、過去の拡大造林政策の転換になるのではないか。

答2 (村長)

これまで拡大造林が行われてきたが、それらを放置すると災害リスクが高まる。リスク低減のため作業道を整備できる山林は搬出間伐、困難な山林は保育間伐を行い、針広混交林化を目指す。

問3 作業道を整備できるのなら搬出間伐は可能ではないか。また搬出困難な人工林が災害リスクを高める根拠は何か。

答3 (村長)

作業道を整備できる山林は限られ、急傾斜地など搬出が困難な山林もある。災害リスクについて、手入れが困難な急傾斜地などは災害リスクが高まると考えている。

問4 近年の災害は大雨による道路決壊が主な要因ではないか。手入れ不足の人工林が災害リスクを高めているという認識に疑問である。

答4 (村長)

これまでの山地災害は排水機能不足が原因と受け止める。一方で、手入れが行き届かない急傾斜の林地を放置しておくことによる災害も想定される。

問5 作業道が開設できない急傾斜地の造林地が約5,000ヘクタールある。昨年の9月定例会で架線集材は何としても続けていくと答弁しているが、改めて架線集材に対する思いをお聞かせいただきたい。

答5 架線集材は重要な技術と認識している。コストとの関連はあるが大切に扱っていききたい。

問6 村内林業事業体の架線集材と架線技術者の現状はどうなっているか。

答6 (村長)

伐採届によると、車両系集材が約75%、架線集材は約25%となっている。また、林業架線作業主任者や簡易架線集材装置等特別教育受講者などいずれかの資格を所持している方が8割という高い割合となっている。

問7 架線集材はコストがかかる。コスト軽減と技術者のスキルアップに対する支援が必要。



答7 (村長)

架線集材に対する補助は経済性の確保とメリットが期待される。山林条件等も研究を重ねて架線集材に対する支援の形ができたらと考えている。



那須重美議員

質問

公営住宅の現状と今後の改善策について

問1

各地域で空き住宅があるが理由について伺う。

答1

(村長)

空き住宅は全体で20戸。要因として地域おこし協力隊の業務終了に伴う離村、教職員数の減、退居し地元へ帰られる等の村内の転居となっている。

問1
-2

空き住宅の増加は一時的なものと認識しているものか、今後も続く要因になると考えているものか伺う。

答1
-2

(村長)

募集をしても入居が進まず、将来に向かってこの数字を慎重に検討していく必要があると考えている。

問1
-3

住宅不足が課題とされる一方で、空き住宅の原因分析と改善を進め、人口対策や地域活性化につなげるべきと考える。空き住宅として残っている原因に関して考えを伺う。

答1
-3

(村長)

しっかりと分析し、費用対効果のないものについては、取壊しを含めて検討する必要があると考える。

問2

今後の入居対策はどのように考えているものか伺う。

答2

(村長)

やまびこ通信や村ホームページなどで入居募集を行っている。今後も空き状況の確認を随時行いながら公募を行っていく。

問2
-2

従来通りの取組みと思われる。空き住宅の解消に繋げる為の対策や改善策は考えていないものか伺う。

答2
-2

今のところ、村民に状況を知らせ、入居を促していくというところである。空き住宅の資質の向上も気をつけていく。

問2
-3

住む場所の確保は最も基本的なインフラと思われる。公営住宅を単なる管理行政として考えるのではなく、人口対策や、それらを資源としての位置づけをするべきと考えるが見解があれば伺う。

答2
-3

入居者がどのような形で住宅を求めているのかということも把握する必要がある。新しい住宅支援のやり方なども考慮し、住宅政策には検討を加えていきたい。

問3

家賃が高いという理由で途中退居している村民の声を耳にする。そういった実態があるのか伺う。

答3

入居基準額を超えた収入超過者の家賃が高額となり、退居された方は一定程度いる。

問3
-2

公営住宅は単なる行政財産でなく、住民定着を支える生活基盤であると思われる。退居者が存在する以上、入居者が安心して住み続けられる家賃政策を検討すべきと思うが見解を伺う。

答3
-2

公営住宅は家賃設定に制約がある。今後は国の支援に頼らない住宅整備も視野に、新しい形での住宅政策を検討していく。

問4

入居希望者に対して、どのような説明をおこなっているのか伺う。(家賃・入居条件)

答4

(村長)

希望する住宅の家賃について問合せがあった際には、入居の条件や前年度の所得を聞き、仮算定で家賃算定の結果について本人に伝えている。入居前には正規な収入情報を元に改めて家賃算定を行い、仮算定家賃から変動があることについて説明している。

問4
-2

説明不足から村民が理解できず、家賃が高いと誤解しているのではないかと。書面で説明するべきと考える。公営住宅は行政サービスである以上、制度を運用するだけでなく村民が理解、納得できる説明責任を果たすことが重要であると思われるが、見解を伺う。

答4
-2 村民の皆さんに寄り添いながら、疑念のわかないよう分かりやすく行政サービスを行う所に力を注いでいきたい。

問5 耐用年数を経過している古い住宅の維持管理状況はどのように対処しているものか伺う。

答5
(村長)
耐用年数を経過している住宅は95戸ある。耐用年数に関係なく小規模な異常や劣化等があった部分についてはその都度、修繕を行っている。大規模な改修・修繕については、村公営住宅等長寿命化計画に基づき修繕を行うこととしている。今後は、耐震基準を満たしていない住宅の建替えも進める必要がある。村公営住宅等建替計画に併せ、住宅需要の把握や施設規模等を検討した上で進めていく。

問5
-2 老朽化した住宅について、具体的な計画がなされていないように思うが、何故、計画がなされていないものか伺う。

答5
-2 小規模修繕等の計画不足は認めざるを得ないと思う。改めて計画を構築していかなければならないと思う。状況を検討しながら、建替えするのか取壊しをするのか改めて考えを正していきたいと思う。

問5
-3 人口対策であったり移住定住対策として、公営住宅の家賃の在り方も一つの政策として考えるべきと思う。見解を伺う。

答5
-3 住宅不足を政策として取り上げた以上、現状把握をし、具体的な計画についても改めて立て直す必要があると感じている。

問6 リフォームされた公営住宅は、どのように家賃に反映しているものか伺う。

答6
(村長)
修繕を行った住宅については、家賃算定には反映させていない。しかし、改修を行った住宅については、公営住宅法の算定基準に基づいて反映させている。また、時期については改修工事実施年度の翌年度からとしている。

問6
-2 改修費用そのものを住宅価値として家賃に転嫁したもののか、利便性向上に伴う係数等の変更によって反映しているものか伺う。

答6
-2 係数を加えて改修工事費用を付加していく流れになっている。

問6
-3 住宅の管理、条例等の改正など、村民に寄り添って村民の声をもとに改善すべきと思うが、改正されていないのはなぜか伺う。

答6
-3 条例等の改正が必要ないというところでの認識である。一方で、リフォームなどを踏まえた家賃の改定については精査中である。

問6
-4 住宅政策そのものが地域存続に直結する。公営住宅を単に建物の管理としてではなく、人を呼び込み、人を支える政策として再構築する必要があると思う。今後を見据えた住宅政策について見解を求める。

答6
-4 椎葉で住んでいく為の大切な基本となる住宅を、資質の向上を含めてある程度のレベルを確保しながら、生活環境、住宅環境そのものを上げていくということを基本に進めたいと思う。



委員会報告

《総務文教常任委員会 所管事務調査》

■調査対象：教育委員会（4月28日：委員会室）

1. 調査内容：令和7年度に開始した親子山村留学

2. 調査目的

- (1) 本村の親子山村留学制度を理解する。
- (2) 昨年度の実施状況を把握する。



- 議案第37号 村道路線の廃止について(本郷合戦原線・延長5,817.3m)
- 議案第38号 村道路線の認定について(本郷合戦原線・延長3,702.3m)
(大河内飯干線・延長6,938.5m)
- 議案第39号
令和8年度 4年災 村道川の口上線 道路災害復旧工事
契約金額 5,775万円
契約相手 株式会社 甲斐建設

村長に聞く! ~ 一般質問 ~



蔵座二九生議員

質問

親子山村留学の取り組みについて

問1

令和7年度の実績について

親子山村留学制度について、令和8年度からの受入れを目指して募集を行った結果、問い合わせ件数や体験留学の状況、実際の受入れ実績などの内容を伺う。

答1

(教育長)

福岡市の小学校保護者への周知やホームページ、SNSで広報を実施。問い合わせは4件あり、宮崎市の家族が体験留学を行ったが移住には至らず、令和7年度の受入れ実績はゼロだった。

問2

実績から見えた問題点について優先的に

募集の結果を踏まえ、どのような課題や問題点があったと分析しているのか伺う。

答2

(教育長)

最大の課題は広報が対象者に十分届かなかったことと、募集期間が実質2か月と短かったこと。山村留学の実績がある自治体では継続的な広報活動が成果につながっていると認識している。

問3

本年度の募集改善策について

昨年度の反省を踏まえ、本年度はどのような改善を行い、募集活動を進めているのか伺う。

答3

(教育長)

募集対象を福岡市、熊本市、鹿児島市、宮崎市へ拡大し、教育委員会や校長会への直接訪問を実施。ホームページやSNS、県福岡事務所のアンテナショップなども活用し、広報強化を図っている。

問4

不土野小学校を対象校とした理由について

親子山村留学の受入校を不土野小学校に限定している理由と、地域の協力体制について伺う。

答4

(教育長)

不土野小学校は児童数減少により存続が危ぶまれたため対象校とした。地域説明会では存続の理解をいただき、実施に踏み込むことができた。人口減少対策にもつながる事業と考えている。

問5

応募がない場合と5年計画の整合性について

本年度も応募がない場合、5年後の制度確立という目標をどのように考えているのか伺う。

答5

(教育長)

現時点では当初計画どおり進め、5年間を目途に親子山村留学制度を形にしたい。

問6

全学校への展開について

山村留学制度を不土野小学校以外の小中学校にも広げる予定があるのか伺う。

答6

(教育長)

将来的には全校で実施する考えがある。ただし、実施には地域や保護者の理解が必要であり、各地区の意向を確認しながら段階的に進めていく。

問7

中学生留学について

小学生だけでなく、中学校の寄宿舎を活用した中学生の山村留学を検討できないか伺う。

【総務文教常任委員会政務調査】 6月1日(西米良村議会)

●西米良村議会と椎葉村との意見交換会

「人口減少を前提にした現実的な村づくりを目指すには」をテーマに西米良村議会の常任委員会3名と意見交換を行いました。

内容は、

1. 移住定住政策における空き家の活用状況について(椎葉村)
2. 地域資源の活用によるふるさと納税の取組みについて(西米良村)
3. 地域の買い物事情について(椎葉村)
4. 地域おこし協力隊員の活動支援と住民の受け入れ姿勢について(西米良村)
5. 小学校・中学校の統廃合政策について(椎葉村)
6. 農林業の担い手不足への対応について(西米良村)

以上6項目について意見交換を行い、村づくりに対する課題や解決に向けての取り組みを共有しました。



議員活動報告

椎葉村乾椎茸品評会及び第53回椎葉村椎茸部会総会 4月10日

令和8年4月10日、椎葉村乾椎茸品評会及び第53回椎葉村椎茸部会総会が行われた。品評会においては、どの部門においても、素晴らしい出来具合であった。日頃から本村の基幹産業である原木椎茸の生産振興にご尽力いただいている生産者の皆様方に深く敬意を表します。



園芸部会総会 4月21日

令和7年度椎葉村園芸部会定例総会が、4月21日開発センターにて多くの会員の出席のもと開催された。

表彰では園芸部会長表彰として、椎葉英男氏が「ほうれん草部門」で安定した収量、高収量、また部会活動への積極的な参加や産地力向上に尽力し卓越した技術力などを認められて表彰された。

また椎葉村長特別表彰として、山中憲太郎氏が「ミニトマト部門」で安定した収量、部門内でも高収量を上げ、卓越した技術力が認められて表彰された。

情勢報告として北九州青果株式会社の利光将和氏による報告があり、椎葉村の物は人気が高い、これからも多くの出荷を望むとの報告であった。

気候変動の中で厳しい状況ではあるが、今後の更なる品質の向上と高収量、そして高収益を目指して努力されることを期待します。

第50回 和牛改良組合総会 4月24日

本村の家畜管理センターにおいて、会員59名の出席のもと総会が開催された。

総会に先立ち、改良組合において功績のあった会員の表彰があった。分娩間隔優良会員10名、最高価格雌仔牛に村長表彰として那須雅志氏、去勢仔牛に議長表彰として椎葉文吉氏が受賞した。

また、東臼杵家畜市場運営部において情勢報告の講演もあり、仔牛価格は上昇しているが資材高騰が心配される中、肥育農家や生産者の負担が懸念されると評した。

和牛改良組合の基本目標も設定され、活動計画によって会員のさらなる飛躍を議会としても見守っていくべきだと感じた。

総会終了後に畜魂供養祭が行われ、意見交換会も行われた。

村内一斉災害危険箇所調査 5月27日

関係機関全ての方により災害危険箇所調査が行われた。村内で今までに危険箇所として提出されている箇所は110箇所であるが、その中には現在工事を進めているもの、すでに対策が済んである箇所もあった。現地踏査を行った後に検討会が開かれ、危険度のランク付け及び優先度の検討がなされた。

この調査は日頃村内に住んでいて多少によらず危険と感じていることを、各地区の消防団に伝えることで、専門家の方々が現地を見て審査します。少しでも危険と感知することがあれば、近くの消防団員に伝えてください。

これから先、台風などの災害の発生が予想されますが、たとえ予防工事が完成されたとしても安心せず、情報を確認しながら一早い避難を心がけてください。



第71回 宮崎県乾しいたけ品評会・第14回 宮崎県乾しいたけ生産者大会 6月1日

令和8年6月1日JA AZM大ホールにて乾しいたけ生産者大会が開催された。椎葉村の出点数は91点で五ヶ瀬町の134点に及ばず総合で準優勝となった。表彰では特別表彰として林野庁長官賞をはじめ各賞に中瀬裕氏、椎葉武氏、中村義市氏、那須ナミコ氏が受賞した。

開会にあたって挨拶をされた会長の栗原俊郎氏は「後継者不足、高齢化、温暖化など特殊な対策が必要」と言葉を述べた。また、知事においては「今海外での評価が高まっている。シイタケ生産基盤に取り組んでいきたい」と述べた。県では海外に向けた取り組みとしてタイ国に赴いたが、中国産が多く日本産の知名度が低いことから知名度を上げる必要があるとの報告もあった。最後に大会スローガンを全員で唱和し閉会した。

シイタケ生産は重労働であり、高齢化の進む中でその環境整備が求められる。現在スマート農業といわれる中であって、唯一機械化が及ばない産業である。右肩下がりのこの状況をいかにすれば上昇に導いていくのか、これからの課題を感じ、大切な中山間地の産業としてこれから先、共に未来に夢の持てる産業になるよう考える機会となった。



議会の動き

3月	24日	小学校卒業式	各小学校
	25日	定期監査～26日	監査室
4月	2日	総務文教常任委員会所管事務調査	寄宿舎醇和寮
	10日	村椎茸部会総会	開発センター
	11日	椎葉中学校入学式	中学校
	12日	小学校入学式	各小学校
	21日	村園芸部会総会	開発センター
	22日	例月監査・24日	監査室
	24日	和牛改良組合総会	家畜センター
	25日	椎葉村神楽まつり	開発センター
	28日	総務文教常任委員所管事務調査	委員会室

5月	11日	区長・区長代理・組合長研修会	開発センター
		県道上椎葉湯前線期成同盟会総会	開発センター
	12日	九州中央道沿線議会協議会理事会	延岡市
	13日	第3回総務文教常任委員会	委員会室
		日向市・東臼杵郡議長会	日向市
	19日	入郷地域開発期成同盟会議長会	日向市
		東臼杵郡議長会	日向市
	20日	椎葉村商工会総会	商工会館
	21日	上椎葉発電所70周年記念式典	発電所
		第4回議会運営委員会	委員会室
6月		第5回全員協議会	委員会室
	22日	第2回臨時会	議場
		第1回産業福祉常任委員会	委員会室
		第8回議会活性化特別委員会	委員会室
		議会広報広聴特別委員会	委員会室
	25日	全国議長会～27日	東京都
		九州中央道・東九州自動車道期成会総会	延岡市
	27日	村内危険箇所調査	村内全域
		例月監査～28日	監査室
	29日	第5回議会運営委員会	委員会室
		第6回全員協議会	委員会室
6月	1日	総務文教常任委員会政務調査～2日	西都市・西米良村
		県乾しいたけ生産者大会～2日	宮崎市
	6日	県民スポーツ祭～7日	宮崎市
	9日	6月定例会～11日	議場
	10日	第7回全員協議会	委員会室
	11日	第3回産業福祉常任委員会	委員会室

椎葉村議会 テレビ生中継

9月定例会は9月4日（金）開会予定となっています。

お問い合わせは議会事務局まで
(TEL 0982-67-3209)

是非傍聴にお越し
ください。

議会だよりは村
ホームページでもご
覧いただけます。



編集後記

明るく楽しく元気に過ごせる椎葉村をと私ども議会も行政とともに頑張っております。私の一日の始まりは新聞に目を通すことからです。まず新聞を手にするとき、雨の日も風の日もご苦労様ですと言ってお礼を。去る6月4日の宮日新聞に椎葉小学校4年生の投稿があり、先生に教えられたこと“3つのかく”が大変大切なんだとの記事。「一つ目が勉強で文字を書く」、「二つ目は体で汗をかく」、「3つ目は心で恥をかく」です。恥をかくことはチャレンジしたことの証とのこと。“3つのかく”を大切に今後中学・高校・大学と頑張してほしいです。

(甲斐美義)

